

冬の陽だまりが心地よい季節となりました。Y校図書館では図書委員によるクイズイベントが始まっています。クイズに参加すると、図書委員会特製のしおりやブックカバーのプレゼントがあるそうです。しおりのクオリティも、さすがY校生！と思える素敵なものばかりです。クイズと言えば『クイズ思考の解体』伊沢拓司(031イ)には、クイズの歴史に始まり、クイズそのものを理論的に分析した、クイズとは何かを知るためのあれこれが書かれています。図やグラフも交えながらあらゆる切り口でクイズを語っているこの本は、課題研究などの参考にもなりそうです。

司書

## 冬休みの特別貸出！

**20冊 1月12日(木)まで** 貸出しが可能となります。

読みたかったあの本やマンガを読破するチャンスかも！



### 🏆 サッカーの本！ 🏆

ワールドカップの興奮が冷めやらぬまま年を越しそうです。4年後も大いに期待できる戦績からは、結果以上の夢と希望をもらいました。サッカーにちなんだ本を読んで、もう少し余韻に浸りませんか。

#### 🏆 戦術の本

- 鬼木祐輔『サッカー「いい選手」の考え方 個とチームを強くする30の方法』(783.4 オ)
- 林雅人『オランダに学ぶサッカー戦術練習メニュー120』(783.4 ハ)
- 倉本和昌・藤原孝雄監修・清水英斗編著『攻守のセオリーを理解するサッカーセットプレー戦術120』(783.4 シ)
- 河村優監修・清水英斗編著『イタリアに学ぶストライカー練習メニュー100』(783.4 シ)

#### 🏆 ズンっと心に響くサッカー選手という言葉

- 内田篤人『ウチダメンタル 心の幹を太くする術』(783.4 ウ)
- 香川真司『心が震えるか、否か』(783.4 カ)
- 長谷部誠『心を整える。勝利をたぐり寄せるための56の習慣』(783.4 シ)



#### 🏆 サッカー小説

- はらだみずき『太陽と月』(913.6 ハ)

これから中学生になる小桧山太陽と大原月人がプロサッカー選手を目指し、クラブチームのセレクションに挑む物語です。小さいうちから熾烈な競争で揉まれてきたから、日本のサッカー界も世界で戦えるようになってきたのかと思いながら読みました。

- 綾崎隼『レッドスワンの絶命』(913.6 ア)

廃部の危機に瀕した高校サッカー部の救世主は女性監督！部員の意識を根底から変え勝利を目指します。

- はらだみずき『高校サッカーボーイズU18』(913.6 ハ)

サッカーで悩み、進路で悩む高校三年生が主人公の小説です。

## 🏆 サッカーの本 あれこれ

### ○平島啓史『平島啓史の日本一わかりやすいJリーグ語辞典』(783.4 ヒ)

わかった気になっていたサッカー用語を懇切丁寧に解説してあり、スッキリします。

### ○佐伯仁史『フツの体育教師の僕がJリーグクラブをつくってしまった話』(783.4 サ)

富山県の高校の体育の先生がプロサッカーチームを発足させるために奔走した話です。地域のためのスポーツチームを産み出し、スポーツをマネジメントとしてとらえ実践してきた話に勇気をもらえます。

### ○河崎三行『蹴る女 なでしこジャパンのリアル』(783.4 カ)

頼もしいY校スポーツマネジメントクラスのなでしこ予備軍にも期待しています！

### ○宇都宮徹壱『蹴日本紀行 47 都道府県フットボールのある風景』(783.4 ウ)

サッカーがある日本中の風景を、写真とエッセイでつむいだ本です。

## 📖 みんなのおすすめ本コーナー 📖

図書館内に、「みんなのおすすめ本コーナー」ができました。

面白かった！すごくよかった！誰かに読んでもらいたい！と思った本におススメコメントをつけて、自由に置いてください。共感できたコメントには、いいねシールを貼って、おススメの輪を広げてくださいね。

## 📖 今月のおすすめ本 📖

### ○風良ゆう『汝、星のごとく』(913.6 ナ)

心が震えるような作品に出合えるのは一年で数冊あるかないかですが、今年最後に手にしたこの本は、間違いなく今年読んで本当に良かったといえる一冊となりました。高校生の櫛と暁海が、それぞれに親に生活を振り回され、でも親を見放せず、苦しみながらも生きていく物語です。できることなら誰でも余計な荷物を背負わずに生きていたい、でも自分のせいではないけれどもそうせざるを得ない、ままたらない苦しみにぶち当たってしまうこともあります。作者のつむぐ「自ら選んだ時点で、人はなんらかの責を負う。他人から押し付けられる自己責任論とは別物の、それを全うしていく決意。それを枷と捉えるか、自分を奮い立たせる原動力と捉えるか、なににせよ、人はなにも背負わずに生きていくことはできない」という言葉に、苦しみを前向きに捉える勇気を少しもらった気がします。どんな人生でも受け入れて生きていく強さや、正しく生きていくということを、けれどももうまくいかなくて崩れてしまう弱さがあってもいい、世間的な正しさに従わなくてもいい、人と人はなかなか分かり合えないけれどそれでもいいんだということをおわせてくれる本でした。

## ～図書委員会からのお知らせ～

### 図書館クイズ Q

あなたは全て解けるか!?

～ルール～

- ① 全6問、全て解く！
- ② 全問正解すれば景品 GET！

<景品> ブックカバー、しおり、30分司書体験



## Y校アーカイブ vol. 14 「野球歴史寫真帖」

野球好きの方には垂涎の一冊をご紹介します。大正11年12月に発行された「野球歴史寫真帖」は、明治38年から大正7年までの学生野球を中心とした、全104ページの写真集です。横22.3cm、縦15.5cm、厚さ1.2cmほどの大きさで、紐で綴じられています。金額は「定價 壹圓八拾錢(1円80銭)」とあります。現在に置き換えると4800円くらいでしょうか。発行元は「東京市日本橋區本石町三丁目」にあった「野球界社」で、現在日本橋コトドがある辺りに会社をかまえ、明治44年の9月から昭和17年12月まで「野球界」という雑誌を月2回発行していたようです。印刷会社と発売元の会社は現在も存続しています。

この「野球歴史寫真帖」は、国立国会図書館デジタルコレクションにも上がっていますが、冒頭のカラーページは白黒になってしまい、欠けたページもあり、見開きをさらに広げた「如何に雄大なるかを觀よ」というく米国商売人グラウンドの大観を現したページもすべてが見られず、その雄大さをつかめません。美しく残されているY校の資料はとても貴重です。



巻頭の4ページのみがカラー写真です。

目次のタイトルからは、明治38年から大正7年までの野球の繁栄の様子が伝わってきます。

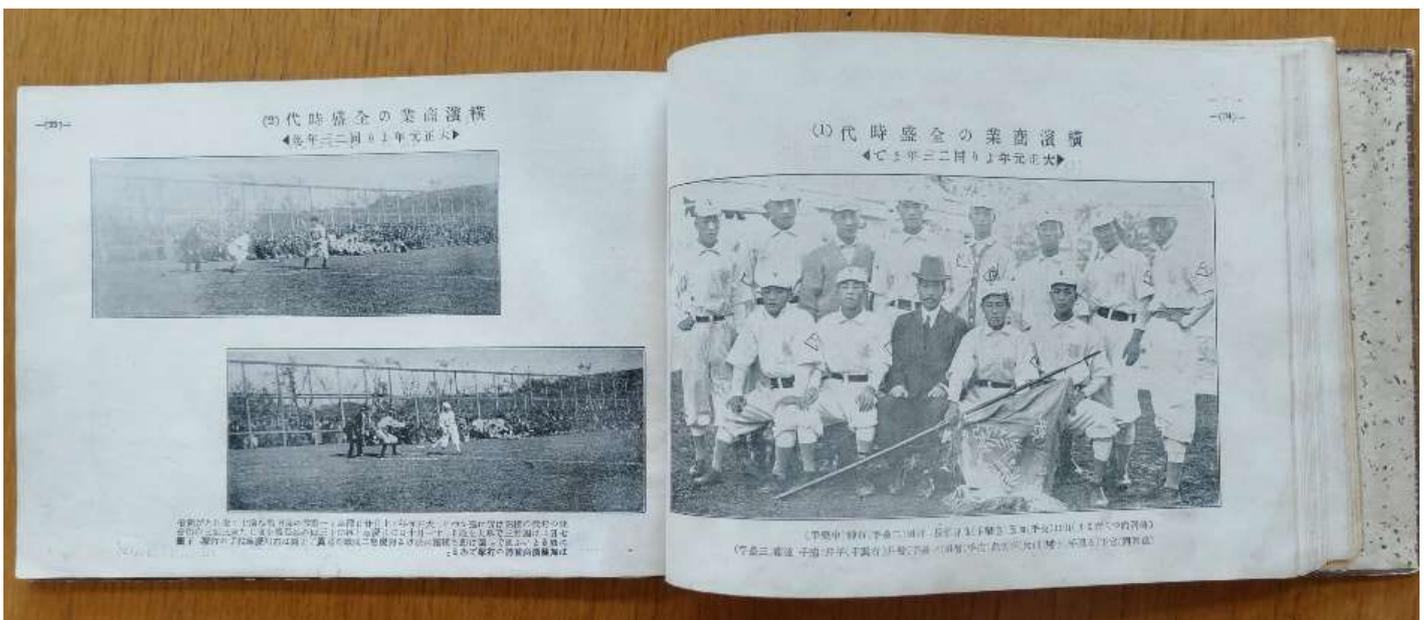
見開きを、さらに観音開きにした、約61.5cmのパノラマ写真です。文字が右から左へと書かれているため、読みにくく感じるコメントには「圖は有名なる紐育ポログラウンドの全景であつて守れるはセントルイス・カーデナル、攻むるは本年の世界選手権獲得チーム紐育巨人軍。其の廣さは優に我が早大グラウンドの二倍もあると云ふ。然るに彼の有名なる本壘打王ベーブ・ルースの一打は屢遙か外野に見ゆる旗の上を二三間もライナーでオーバーすると此のグラウンドと共に彼の猛打は米國球界の誇りとするに足るであらう。」とあります。



### 横濱商業の全盛時代 (1)、(2) <大正元年より同二・三年まで> 34、35ページ

右ページには、後の大正12年から13年にかけてY校第二代目の校長となる唯野先生を中心に、12名の選手が、ポジションと名前入りで掲載されています。袖にYのマークが輝くユニフォームには襟がついています。

左ページには「此の時代の横商は實に強かつた。大正元年の十月廿日、慶應と一對零の接迫戦を演じて敗れたが、同廿七日には四對三で早大を破り、十一月十日には慶應と再び十三回の延長戦を演じた末、三對三の引分に終るといふ風で。圖は即ち横濱に於ける對慶應二回戦の寫眞で上圖は石川慶應投手の打撃、下圖は加藤横商首將の打撃である。」と書かれています。(一部句点を追加しました)



他のページには、慶應や早稲田、明治などの大学の対抗試合の様子や、沙市(シアトル)、市俄古(シカゴ)、布哇(ハワイ)、麻尼拉(マニラ)などからの遠征試合の様子や、ちゃんまげのカ士野球団の写真などが掲載されています。